

吉阪隆正展九州

2006年6月10日～6月24日

■展示 吉阪隆正展

「宇宙の中の人間・建築・都市／鳥の眼と虫の眼」

日程 2006年6月10日(土)～24日(土) 10:00～17:00

(入場は16:30まで 土日開館)

会場 九州大学西新プラザ(福岡市早良区西新2-16)

入場料 無料

■記念イベント

第一回 6月10日(土) 17:00～20:00

講師:重村力(建築家、象設計集団チームいるか代表、神戸大学教授)

第二回 6月17日(土) 14:00～17:00

司会:湯本長伯(九州大学) 齊藤祐子(SITE)

パネリスト:鈴木恂(早稲田大学) 富田玲子(象設計集団)

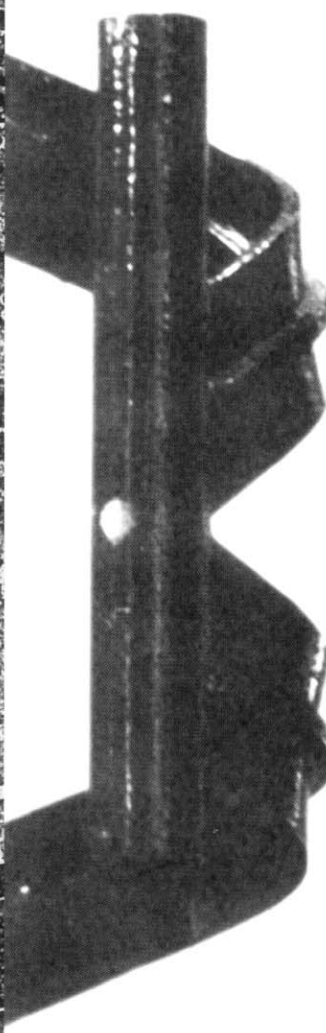
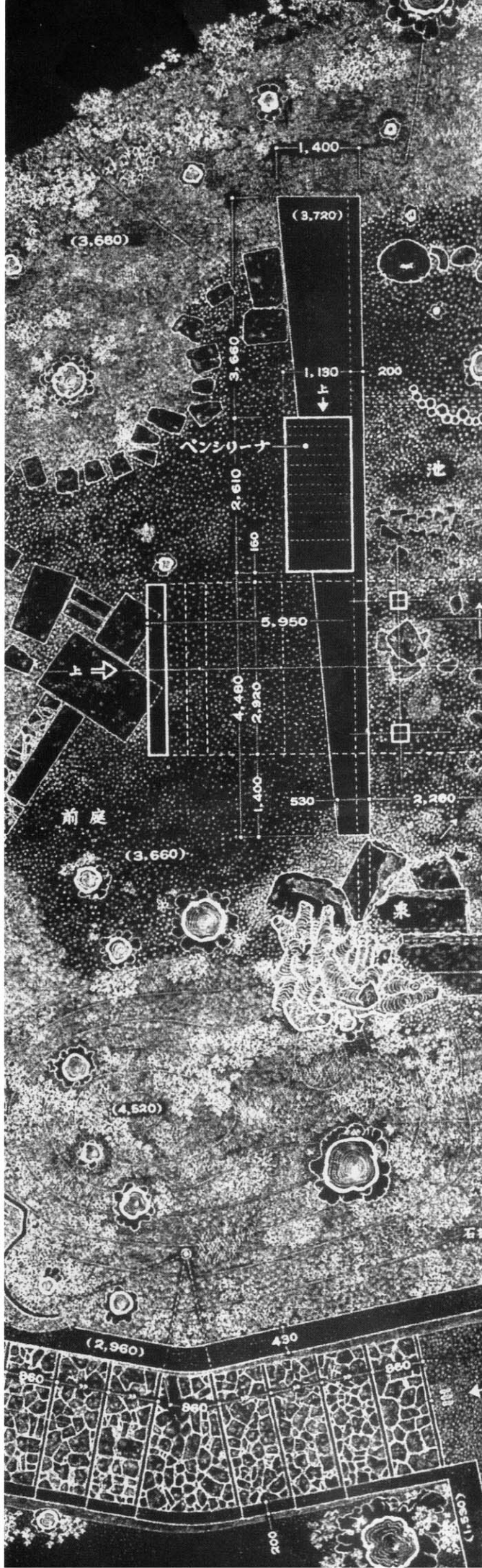
写真:北田英治(写真家)

第三回 6月24日(土) 14:00～17:00

講師:内藤 廣(建築家、東京大学大学院教授)

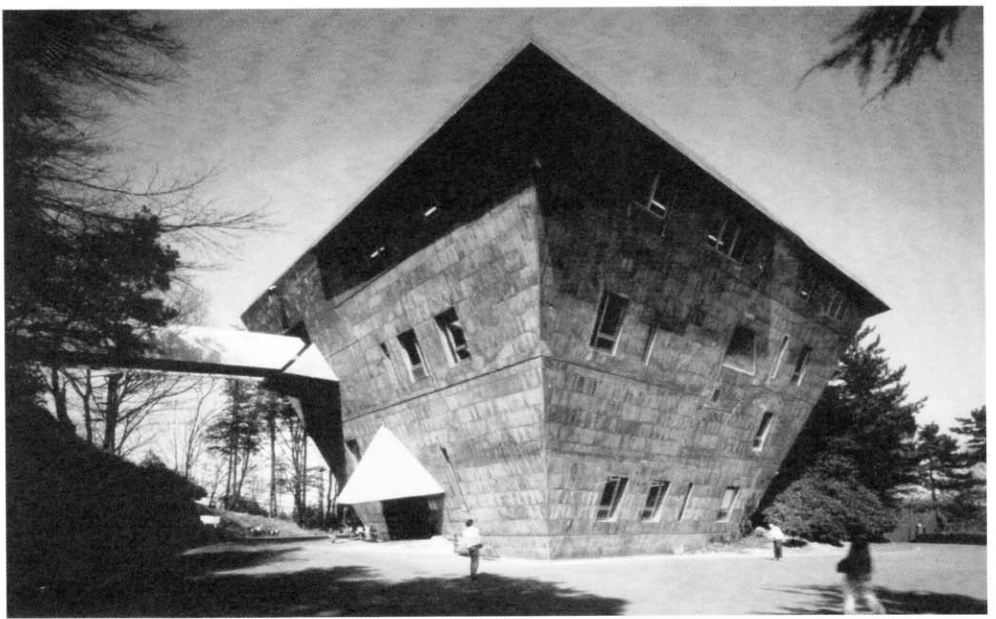
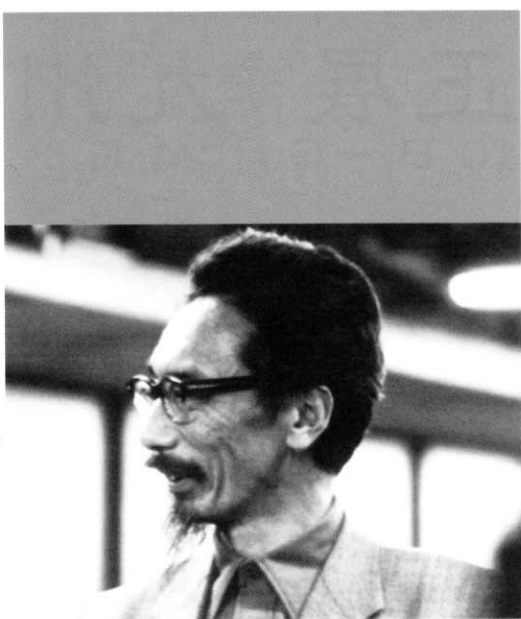
会場 九州大学西新プラザ内 中会議室

入場料 無料



主催 吉阪隆正展・九州実行委員会
共催 社)日本建築家協会九州支部
社)日本建築学会九州支部
稲門建築会九州支部
後援 福岡市、朝日新聞社、西日本新聞社、
NHK 福岡放送局 TNC テレビ西日本、
KBC 九州朝日放送、
早稲田大学校友会福岡県支部
問合せ 実行委員会事務局
湯本長伯(九州大学デザイン総合部門)
TEL: 092-553-4584
FAX: 092-553-9450
E-mail: yumoto@design.kyushu-u.ac.jp

図)ヴェニス・ビエンナーレ日本館 配置図
把手



吉阪隆正 Yosizaka Takamasa 1917~1980

- 1917年生まれ。'33年ジュネーブ・エコール・アンテルナショナル卒業。'41年早稲田大学工学部建築学科卒業、教務補助として大学に残り、'59年教授となる。'80年63歳で死去。
- 1950年~52年フランス政府給費留学生として渡仏、ル・コルビュジェのアトリエに勤務。'54年吉阪研究室（'64年U研究室と改称）を設立。ヴェネチア・ビエンナーレ日本館、呉羽中学校、アテネ・フランセ、大学セミナーハウスなどを設計する。
- また、今和次郎に、師事し、農村、都市、地域への提案を展開。
- <住居学汎論>など多数の著作があり、<吉阪隆正集 全17巻>としてまとめられている。
- 日本建築学会会長、生活学会会長を歴任。日本山岳会理事を務め、赤道アフリカ横断とキリマンジャロ登頂、早大アラスカ・マッキンレー遠征隊長、そしてヒマラヤK2遠征を組織するアルピニストであり、地球をその足で駆け巡り、人と人をつなぐ、ことばとかたち、生活とかたちを語り続けた。

■2004 吉阪隆正 「吉阪隆正の迷宮」（2004 吉阪隆正展 実行委員会編／TOTO出版）全国の書店にて発売中

なぜいま吉阪隆正か？

吉阪隆正は、戦後まもない1950年から1952年にフランス政府給付留学生としてパリへと渡り、20世紀を代表する建築家ル・コルビュジェのアトリエに学びました。帰国後は、母校の早稲田大学で長く建築教育に携わる一方、精力的な設計活動を続けた建築家です。その独特な風貌と個性的な作風で知られますが、吉阪は、地球的なスケールと文明論的な視野で幅広く建築や都市を真摯に考え抜いた思想家でもありました。人とももののかかわりを「多様な眼」で見つめて、その豊かな関係性を探る「有形学」を提唱しつつ、ある時は、壮大な地域計画をあらわし、そして、ものに命を込めるディテールにこだわり続けた実践者でもあったのです。

この展示会は、2004年に開催された吉阪隆正展を基に、さらにいくつかの計画案やその模型、彼の残したスケッチブックなどを加え、その全体像に迫り、現代への意味を深く広く読み取ろうとするものです。たくさんの学生の手によって制作された模型や描き込まれた原図、写真を通して、「吉阪隆正という宇宙の中の人間・建築・都市/鳥の眼と虫の眼」に触れていただきたいと思います。



JR博多駅から地下鉄で（約15分）西新駅下車、徒歩約10分
 JR博多駅からタクシーで約25分
 住所：福岡市早良区西新2-1-6